

令和3年4月27日

萩生田光一 文部科学大臣 殿

自殺対策を推進する議員の会

## 「コロナ禍における教育現場での自殺総合対策」に関する緊急要望

～児童生徒に対する生きることの包括的な支援の更なる強化について～

我が国はいま、平成10年に自殺者数が急増して以降、最も深刻な自殺の危機に直面している。当議員連盟の前身にあたる「自殺防止対策を考える議員有志の会」が中心となって平成18年に自殺対策基本法を制定し、自殺対策が社会的な取組として進められる中、平成22年以降は10年連続で自殺者数は減少した。しかし、警察庁の自殺統計（確定値）によれば、昨年の自殺者数は前年比4.5%増の2万1081人となり、11年ぶりに増加。特に児童生徒の自殺が深刻で、前年比25.1%増の499人（過去最多）となっている。

当議員連盟では、こうした危機に立ち向かうため、昨年3月と11月及び本年3月に、「コロナ禍における自殺総合対策」の強化に関する緊急要望を政府に対して行った。これらの中には児童生徒を対象としたものが多く含まれているが、昨今の児童生徒による自殺の深刻な状況を重く受け止め、児童生徒に対する生きることの包括的な支援（自殺対策）の更なる強化を図るべく、以下の7項目の推進を文部科学省に対して強く要望する。

### 記

1. 「児童生徒の自殺統計原票」導入による実効性の高い自殺対策への転換
2. 自殺総合対策のための「児童生徒の問題行動等に関する調査（既存）」の分析
3. 「子どもの自殺危機対応チーム（仮称）」の全国設置
4. コロナ禍における「SOSの出し方に関する教育」推進の強化
5. ITを活用した自殺リスクのアセスメントツール等の整備
6. 「精神疾患に関する教育」の義務教育からの推進
7. 中高生及び大学生向けのゲートキーパーの育成・支援の推進

## 1. 「児童生徒の自殺統計原票」導入による実効性の高い自殺対策への転換

- ・児童生徒の自殺又は自殺が疑われる死亡事案が起きたとき、学校又は教育委員会が背景調査を行うこととされているが、それらの情報を集約・分析する仕組みがない（数年に一度収集するのみ）。また、警察庁の自殺統計にも児童生徒の自殺（原因・動機等）に関する情報が含まれているが、他の属性等と比べて「判断材料なし」の比率が高く、これにおいても児童生徒の自殺実態を十分に把握できていない。
- ・こうした実情を踏まえ、1) 文部科学省は「児童生徒の自殺統計原票案（別紙参照）」を導入することで児童生徒の自殺実態を把握し、2) 調査研究等指定法人のち支える自殺対策推進センター（以下、「JSCP」）の協力を得るなどしてそれらを継続的に分析する仕組みを作り、3) 実効性の高い児童生徒の自殺対策を強化すること。【文部科学省、厚生労働省、JSCP】

## 2. 自殺総合対策のための「児童生徒の問題行動等に関する調査（既存）」の分析

- ・「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」には、児童生徒の自殺の背景等を分析するために必要な情報が多く含まれており、自殺総合対策の専門家が集まるJSCPの協力を得るなどして、これを児童生徒の自殺に関する多角的な分析に活用すること。【文部科学省、厚生労働省、JSCP】

## 3. 「子どもの自殺危機対応チーム（仮称）」の全国設置

- ・自殺リスクを抱えた児童生徒を各地域で包括的に支援（児童生徒の家庭等も含めて支援）できるようにするため、各都道府県に「子どもの自殺危機対応チーム（仮称）」を設置し（長野県が設置済）、当該チームが後押しする形で、各地域における学校と保健所、児童相談所と医療機関等による実践的な連携を促進すること。また、そのために必要な枠組みを整備すること。【文部科学省、厚生労働省】

## 4. コロナ禍における「SOSの出し方に関する教育」推進の強化

- ・自殺予防教育プログラムの実施率が極めて低い現状を踏まえて（平成29年に文部科学省が行った調査では全国の実施率は1.8%）、児童生徒の自殺防止の実効性を高めるために推進することとなった「SOSの出し方に関する教育」を更に強化し、児童生徒がコロナ禍において、ひとりで悩みや課題を抱え込んでしまうことがないようにすること。【文部科学省、厚生労働省】
- ・教職員や保護者等を対象に、「SOSの受け止め方」を含めたゲートキーパーとしての役割に関する研修を徹底すること。【文部科学省、厚生労働省】

## 5. ITを活用した自殺リスクのアセスメントツール等の整備

- ・学校において児童生徒の自殺リスクを早期に察知し、当該児童生徒を速やかに支援につなげるため、ITを活用した自殺リスクのアセスメントツール等を全国の学校に整備すること。その際、GIGAスクール構想において進められているタブレット端末の配布の動き等とも連携を図ること。【文部科学省、厚生労働省】

## 6. 「精神疾患に関する教育」の義務教育からの推進

- ・令和4年度から高校で実施される「精神疾患に関する教育」を、義務教育から行うこと。精神疾患症状の出現ピークは14歳と言われており、子どもたちがそれまでに精神疾患に関する正しい理解を身につけられるようにすること。教職員や保護者等に対する研修等もこれに先んじて充実させること。【文部科学省】

## 7. 中高生及び大学生向けのゲートキーパーの育成・支援の推進

- ・中学生、高校生、大学生向けのゲートキーパーの育成・支援を行うこと。実施にあたっては「SOSの出し方に関する教育」とセットで推進すること。【文部科学省、厚生労働省】

以上

# 児童生徒の自殺統計原票（案）

学校もしくは教育委員会が記入することを想定（※警察庁「自殺統計原票」を参考に作成）

①自殺の年月日時		( )年( )月( )日( )時		②生前の居住地の市区町村		( : : : : )		③年齢		( : )歳		
④所属等	学年		小学( )年 中学( )年 高校( )年 高等専門学校( )年 その他( )年									
	性別	戸籍	1男 2女		学校の種類等	1国立 2公立 3私立 4フリースクール等			高校の課程	1全日制 2定時制 3通信制		
		自認	1男 2女 3その他		学校の所在地	1在住市区町村内 2在住市区町村外・在住都道府県内 3在住都道府県外						
	同居人		01父 02母 03継父 04継母 05祖父 06祖母 07兄 08姉 09弟 10妹 11その他( )									
	同居人との関係		1とても良かった 2良かった 3悪かった 4とても悪かった 5不明									
居住環境		1実家 2実家以外の親族等の家 3知人・友人宅 4寮(全寮制) 5寮(その他) 6児童養護施設等 7その他( )										
⑤健康状態	身体の不調		1あり 2なし 3不明			⑥相談履歴	学内での相談		1あり 2なし 3不明			
	ありの場合	いつ頃					ありの場合	いつ頃				
		どんな						誰に				
	精神の不調		1あり 2なし 3不明				医療機関の受診		1あり 2なし 3不明			
	ありの場合	いつ頃					ありの場合	診断名				
		どんな				診断時期						
						その他、専門機関等への相談		1あり 2なし 3不明				
	眠れていないようだった		いつ頃から	亡くなる( )日前から		「死にたい」「消えたい」といった言動		1あり 2なし 3不明				
	食欲不振や増進、急激な体重の増減		いつ頃から			ありの場合	いつ頃					
	落ち込んでいる様子だった		いつ頃から	亡くなる( )日前から			どんな					
いつもと様子が変わった		いつ頃から	亡くなる( )日前から		⑦自殺行動等		1あり 2なし 3不明					
⑧障害の有無等	障害者手帳		1あり 2なし 3不明			ありの場合	いつ頃					
	ありの場合	障害の種類	1身体障害 2知的障害 3精神障害 4不詳 ※1~3のうち該当するものをすべて選択すること				どんな					
		発達障害		1診断あり 2診断ないが傾向あり 3診断も傾向もなし			自殺未遂		1あり 2なし 3不明			
⑨生活状況	同居人からの虐待		1あり 2なし 3不明			不登校・保健室登校		1あり 2なし				
	いじめ被害		1あり 2なし 3不明			ありの場合	いつ頃から					
	学力の急激な低下		1あり 2なし				きっかけ					
	生活困窮(世帯)		1あり 2なし 3不明									
⑩自殺の要因（主な要因は◎、要因は○、要因の可能性は△）												
学校問題		01学業不振 02入試に関する悩み 03進路に関する悩み(入試以外) 04いじめ 05学友との不和(いじめ以外) 06教師との人間関係 07性別による差別										
家庭問題		08親子関係の不和 09その他家族関係の不和 10家族の死亡 11家族の将来悲観 12介護・看病疲れ 13家族からのしつけ・叱責 14家族・同居人からの身体的虐待 15家族・同居人からの心理的虐待 16家族・同居人からの性的虐待 17家族・同居人からのネグレクト										
健康問題		18悪性新生物 19てんかん 20その他の身体疾患 21うつ病 22統合失調症 23摂食障害 24その他の精神疾患 25身体障害の悩み										
交際問題		26失恋 27不倫・浮気 28結婚に関する悩み 29交際相手からの暴力(DV被害) 30ストーカー行為等										
その他		31犯罪被害 32犯罪発覚等 33SNS・インターネット上のトラブル 34性的少数者であることの悩み・被差別 35孤独感 36近隣との関係 37後追い自殺 38その他の者(家族、同居人、交際相手以外)からの虐待・暴力被害 39その他										
不詳		99不詳										
⑪自殺の危機経路												
自殺で亡くなった場所												
要因の発生順												
要因の発生時期												
										年 月 日作成		
										作成者		